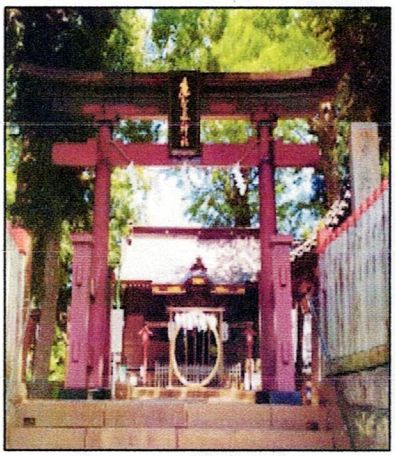
ワンポイントガイド

①佐倉藩 藩校成徳書院跡(佐倉市民体育館前)



佐倉高校の前身である佐倉藩の藩校は、寛政4(1792)年に藩主堀田正順(まさなり)公が、藩士の子弟教育のため宮小路の麻賀多神社前に設 立した「学問所」に始まり、文化2(1805)年には「温故堂」と改称しました。教育の基本は幕府が正学とした「朱子学」で、幕藩体制や人間関係の秩序を重んじる教育がされました。天保7(1836)年に藩主堀田正睦(まさよし)公が佐倉城追手門前(現佐倉 市民体育館前)に移転拡充し、「成徳書院」と改称しました。

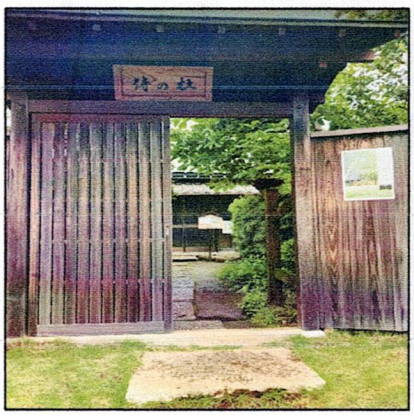
②麻賀多(まかた)神社と幸せの桜ポスト





旧佐倉藩の総鎮守で、古くから「まかたさま」とこの地方の人々に親しまれ、崇敬されてきたお社です御祭神「稚産霊命(わくむすひのみこと)様は、万事を結び育てる御神徳があり、健児育成・心願成就を祈る方々の姿が見られます境内には樹齢 800 年以上の大銀杏をはじめ古木・大樹に囲まれ た境内は、憩いの場となっております。佐倉市の城下町エリアには、昭和レトロな丸形郵便ポストが点 在しています。「桜に染まる街佐倉」イベント時に4基の丸型ポストを、千葉県立佐倉東高等学校美術部の生徒の皆さんが、デザイン・装飾していま す。キャンペーンに合わせてポストを桜色にするとともに、幸せの象徴と言われている黒猫を入れて、通る人が笑顔になってもらえる ように桜を華やかにデザインされています。

③侍の杜・武家屋敷通りの看板





江戸時代は旧佐倉藩士 2 家分の武家屋敷のあった敷地を利用した市民緑地でこの土地所有者のご協力のもと、市民や観光利用の方に開放されています。また江戸時代の書物「古今佐倉真佐子・ここんさくらまさご」掲載植物園も整備されています。旧佐倉藩士の剣術練習木(復元イメージ)や、旧佐倉藩士が使用していた素掘りの深井戸に加え、江戸時代に使用人や裏庭の畑を耕すための農民が出入りする際に使用した迂回路など、江戸時代の武家屋敷の様子を偲ぶことができます。

④ひよどり坂

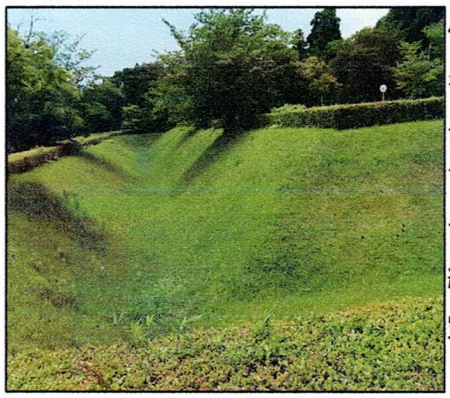


武家屋敷通りに隣接した古径(こみち)で、江戸時代からほとんど変わらない美しい竹林に囲まれています。四ツ目垣、御簾垣、鉄砲垣などが効率的に配され今にも侍が出てきそうな雰囲気です。
日が射すと美しい風景を味わう事が出来ます。

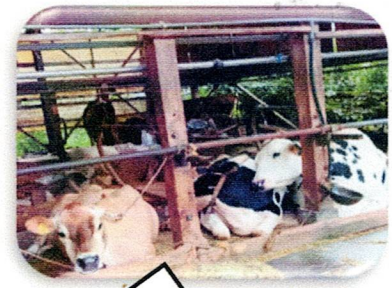


ワンポイントガイド

⑤佐倉城址公園

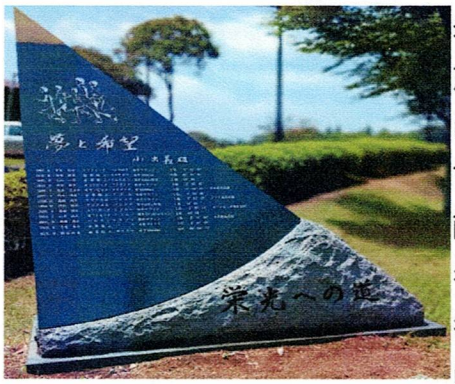


佐倉城は(財)日本城郭協会選定「日本100名城・第58番」に選ばれました。佐倉城址公園は、佐倉城跡の中に設置されている公園です。公園内には天守閣跡、空堀などはじめ、シイ、カシ、モミジなどの大木がいたる所にある緑多き歴史公園です。天守閣跡や巨大な馬出し空堀・水掘に守られた南出丸や西出丸は必見です。



お城を過ぎて歩いていると牛さんもいるよ(金子牧場の乳牛)

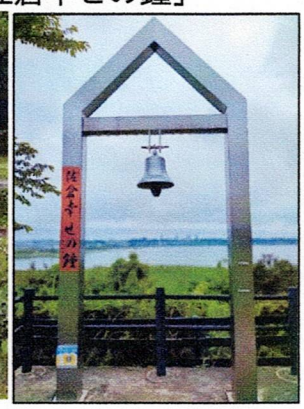
⑥岩名運動公園



岩名運動公園は、佐倉市のスポーツの中心的施設、小出義雄記念陸上競技場、長嶋茂雄記念岩名球場、佐倉スポーツ資料館等があります。●小出義雄記念陸上競技場は、岩名運動公園を拠点として、世界で活躍する多くの陸上選手を育成し、また佐倉市のスポーツ振興にも多大な貢献をされた、小出義雄監督の業績や佐倉市への貢献を後世に伝えるため、令和2年2月15日(土)に「小出義雄記念陸上競技場」と名称を変更しました。●長嶋茂雄記念岩名球場は、プロ野球、読売巨人軍の終身名誉監督である長嶋茂雄氏の佐倉市市民栄誉賞授与を記念し、平成25年7月12日に「長嶋茂雄記念岩名球場」と名称を変更しました。

⑦印旛沼サンセットヒルズと「佐倉幸せの鐘」





印旛沼サンセットヒルズは、ご家族そろってお楽しみいただける「オートキャンプ場」です。印旛沼を西に見下ろす絶好の立地に恵まれ、開放的な空を茜色に染めながら沈んでいく夕日は、きっと心洗われることでしょう。周辺の灯りが水面に映る夜景もおすすめです。ちば眺望 100 景にも選ばれた景色から見る夕日は絶景です。天候の良い日には、富士山やスカイツリーが見えると話題です。『佐倉幸せの鐘』は、印旛沼を一望できる絶景の丘に設置されています。

⑧佐倉ふるさと広場とオランダ風車「リーフデ」



佐倉ふるさと広場は、本格オランダ風車がシンボルの公園で春はチューリップ、夏はひまわり、秋はコスモスなど四季折々の花々が楽しめます。
周辺には県内最大の湖沼である印旛沼や,美しい田園風景が広がっており,自然の風景を楽しめる風致公園となっています。佐倉市制40周年の平成6年春、佐倉ふるさと広場に、本格的オランダ風車が誕生しました。風車はメカニズム部分をオランダで製造し、オランダ人技師により建設されました。名称は、日蘭交流の幕開けとなったオランダ船リーフデ号にちなみ、リーフデ《友愛》"De Liefde"と命名されましたリーフデは佐倉ふるさと広場のランドマークとして、また日蘭親善のシンボルとして建設され《友愛》により末長くふるさとづくりと、国際親善の一翼を担ってくれる事でしょう。 用途:水くみ用風車(日本初)